



新技術活用促進フォーラム 2007 北海道地区意見交換会

「技術が動く、地域が動く」

—北海道から発信する 新技術開発・活用の方向性を考える—

公共工事の品質確保とコスト縮減等に寄与し、その結果、良質な社会資本の整備を通じて国土や地域、国民生活に多様で高質な貢献を行うことが期待されている新技術。優れた新技術の持続的創出には、民間事業者等により開発された有用な新技術を公共工事等において積極的に活用していくことが重要です。

これらを踏まえ、今回の新技術活用促進フォーラムは、官民における技術開発の一層の推進や更なる新技術の導入促進を図るため、「技術が動く、地域が動く」をテーマに、民・建設業界・大学・官による北海道発信の新技術活用・普及のあり方についての意見交換会として開催しました。



<パネリスト>

- 百瀬 治氏 (社団法人 北海道建設業協会 土木委員)
- 橋井 敏弘氏 (正和電工株式会社 代表取締役)
- 松永 秀司氏 (株式会社サトウ 常務取締役)
- 土岐 祥介氏 (北海道大学名誉教授)
- 宇佐美 光宏氏 (北海道 建設部 建設管理局 技術管理課 主幹)
- 坂場 武彦氏 (北海道開発局 事業振興部 技術管理課 技術管理企画官)

<コーディネーター>

- 葛西 聡 (北海道開発局 事業振興部 防災・技術センター 所長)

<司会>

- 古賀 修也 (北海道開発局 事業振興部 防災・技術センター 技術課長)

新技術開発・活用の 必要性や背景

葛西 本日は、新技術開発・活用についての必要性や背景、その次に新技術開発・活用の現状と課題、最後に新技術の今後の方向性ということで意見交換を進めていきたいと思っております。



まず、新技術開発の必要性についてそれぞれのお立場からご意見を頂きたいと思っております。

坂場氏 新技術がなぜ必要かということ大きく2つあります。1つは厳しい財政状況、本格的な更新時代を迎えるにあたり公共事業のコスト縮減を進めていかねばならないという視点。2つ目は本州にない積雪寒冷地、軟弱地盤などの特殊性や、広域分散型社会による行政コスト縮減からも北海道においてこそ、新しい技術に対して先進的、先駆的な取り組みが必要であるという視点です。

また北海道には国、大学、メーカーの研究機関が多数あります。新技術というテーマに取り組みやすい環境にもあるのではないのでしょうか。

宇佐美氏 新技術活用の目的ということでは、建設業をどうやって元気づけるかという手段の1つであるという部分があると思っております。また、工事現場の効率化という観

点からも北海道の特殊性を踏まえたところに配慮し、地材地消、産消協働で北海道地域内の循環を高めていくことによって産業と雇用の拡大に繋げていくということがあると思います。建設業においても新技術の分野での道産材を積極的に活用することが望まれます。

百瀬氏 建設業界としては、各企業の技術力の確保、向上等の観点から新技術活用システム (NETIS) に大変注目しています。現在の厳しい経営環境の中、建設会社として生き残っていくためには、技術力・施工力に優れていることが重要な要件の1つであります。NETISの本格的な運用によって、実績の少ない従来技術を含む施工性、安全性に優れた新技術が、工事に採用されるケースが増加し、各企業の技術力の向上や新技術の開発に向けた積極的な取組が期待できるところに、新技術活用の意義があると思っております。



土岐氏 これまでも思い切った新技術の採用が成功した例は極めて多く、旧十勝大橋の設計に用いられた技術や、スパイクタイヤの廃止に伴うスタッドレスタイヤの性能向上、高強度繊維材料によるコンクリートの補強等少なくありません。新技術が多数提案され、かつ活用を促進するためには、公共事業で待たれている新技術がどのようなものであるか、活用者、提案者、評価者が情報を共有している